松山市
長寿福祉課
出前講座

～自分と家族のために～

はじめての終活

東雲地区社協では5月に地域の団体リーダーさん向けに行なった、松山市役所長寿福祉課の出前講座「はじめての終活講座」、公民館だより６月号（福の輪だよりNo.14）に講座の様子を掲載したところ、多くの方から「講座を受けてみたい」「エンディングノートはもらえないの？」とのお声をいただきました。そこで、今回は地域の皆さま、どなたでも参加いただけるよう長寿福祉課の出前講座を依頼し、「はじめての終活講座」を開催します。

ひとりでの参加はもちろん、お友達や親子での参加もお待ちしています。むずかしく考えず、お気軽にぜひ、ご参加ください。

講　師　：　終活サポートアドバイザー
日　時　：　10月　9日(金)　10:00～11:00
場　所　：　東雲公民館　2階　大会議室
対　象　：　東雲地区住民
定　員　：　20名
申込み：10月2日(金)までに公民館へ電話/FAX
　　または申込書をご持参下さい。

※高齢の方だけでなく、年齢に関係なく大切な事です。この機会に、ぜひご参加下さい。

キリトリ

はじめての終活講座　参加申込書　　※申込締切　10月2日（金）

氏　名	住　所	連絡先	備考

公民館まで申込書をご提出下さい。　TEL/FAX　941-6630（FAX可）

令和8年9月 第31号　東雲地区現状　人口:9,037人　世帯数:5,871世帯　高齢化率:25．5%(65歳以上2,312人)

しののめ福祉だより

－編集・発行－
東雲地区社会福祉協議会
会長　宮本　教男
電話

サザンカ(街の木)

はじめに

東雲地区社会福祉協議会　会長　宮本教男

日頃から、地域の皆様方には東雲地区社協の活動にご理解とご協力いただき、心より感謝申し上げます。今回は東雲地区社協事務局長・東雲地区民生児童委員・今年度4月より東雲公民館館長に就任された三刀流、**安川 博 館長**にご挨拶いただきたいと思います。



こんにちは。東雲公民館館長の安川です。地域の皆様には日ごろから公民館に対する深いご理解と温かいご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

公民館は、地域の人が元気に明るく生き生きと過ごせるために様々な事業を行い、個人生活の向上、地域社会の発展を図ることを目的としています。そのために、

- つどう（地域の人が気軽に集まれる場所）
- まなぶ（地域の人が学びたいことを学べる場所）
- むすぶ（地域の人や団体や公の機関をつなぐ場所）であることを目指しています。

東雲公民館では、地区社協、町内会連合会を始めとした地区内外の各種団体、ボランテイアの方々などとの連携、協力のもと、乳幼児から100歳以上の老若男女が気軽に参加できる特色のある様々な活動をしています。あなたもぜひご参加ください。

東雲公民館が、「わくわくドキドキしながら行く」、「仲間と楽しく過ごす」、「生活のためになる」、そんな場所でありたいと思っています。

今後とも、地域の皆様方のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

我が街自慢 NO.28 ～俳人たちの句碑を散策～



『牛行くや毘沙門坂の秋の暮』

（うしいくや びしゃもんざかの あきのくれ）

正岡子規（1867～1902）

「愚陀仏庵」で病気療養中の子規が明治28年9月21日の午後、柳原極堂等3人の松風会会員に誘われるまま病院下（今の東雲学園下）から毘沙門坂、六角堂、練兵場、千秋寺、杉谷町と散策したときに詠んだ24句中の2句目です。



ここは城の鬼門（東北）にあたるため城の鎮として、昔、毘沙門天が祀ってあったのでその名があります。

東雲神社へと続く石段の下の信号を渡った所に句碑があります。



『夕桜城の石崖裾濃なる』

（ゆうざくら しろのいしがけ すそごなる）

中村　草田男（1901～1983）



松山市東雲町にある東雲公園の東側に建てられています。草田男と言えば「降る雪や明治は遠くなりにけり」が有名です。

掲載句は松山出身の草田男が昭和9年の帰省時に詠んだ句です。「裾濃」とは衣服の色合いで、裾に近いほど濃いもののこと。

碑の文字は自筆です。





紹介した以外にもいろんな所に句碑がまだまだあります。ぜひ、探してみて下さい。





祝 敬老の日おめでとうございます



東雲地区には、80代561名、90代208名、100歳以上9名の高齢者の方々が生活されています。皆さんがいつまでも東雲地区での暮らしが続けられるよう、また、これらから高齢者となられる方が安心して老後を迎えられるような東雲地区にするために地区社協では色々な活動を進めていきたいと思います。今後も地域住民の方々のご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



オレンジガーデニングプロジェクト



認知症のシンボルカラーであるオレンジ色の花を育てる「オレンジガーデニングプロジェクト」。オレンジ色の花を地域のみんなで植え、育てることで認知症への理解を深め「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」の輪を広げる活動です。花を通して地域の人とのつながりが生まれ、お互いを思いやる気持ちを育みます。

３月に花の種を配布したところ、たくさんの方から「咲きました。」と写真を届けてくださいました。
ありがとうございました。





～世界アルツハイマー月間～



９月は世界アルツハイマー月間です。
認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちを、みんなでつくっていこうという思いを共有する月間です。
この機会に、認知症について正しく知り、「どんなまちなら誰もが暮らしやすいだろう」と考えてみませんか。
例えば、自分にできることは次のようなものがあります。



- **認知症について正しい知識を身につける。**
- **困っている様子の方を見かけたら、優しく声をかける。**
- **相手の気持ちを大切にし、見守る姿勢を持つ。**
- **家族や地域の人と認知症について話し合う。**
- **認知症サポーター養成講座などに参加して理解を深める。**

認知症は誰にとっても身近なことです。自分や家族が将来、認知症になる可能性もあります。だからこそ、お互いを思いやり、支え合える地域づくりが大切です。一人ひとりの小さな行動が、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりにつながります。
オレンジ色の花とともに、思いやりの花も地域に咲かせましょう。一人ひとりの優しさがあふれる素敵な我がまちになることを願っています。

愛媛県災害福祉支援センターの設置について

愛媛県社会福祉協議会では、行政や保健、医療、福祉、団体等と連携し、人材育成や体制整備を通じて災害時の福祉的支援を推進するため、地域における日頃の見守りや支え合いの取り組みを基盤に、「災害時にも誰一人取り残されない地域共生社会の実現」を目指す民間主導・常設型の災害福祉中核機関の拠点として、令和8年4月1日に「愛媛県災害福祉支援センター」を開設しました。





◆平時の取り組み

1　人材育成（専門知識と現場対応力を持つ人材の継続的な輩出）
2　ネットワーク形成（多様な主体を繋ぐ、重層的な関係構築）
3　仕組みづくり（実践的な訓練と、専門的アドバイザーによる体制強化）
4　広報・啓発（共通認識の醸成と、県民・関係機関への周知）

◆有事の取り組み

1　災害福祉中核機関として、行政・社協・福祉・保健・医療関係者、NPO、士業団体など多者連携により情報共有を行い、支援の漏れや重複を防ぎます。
2　被災地に設置される災害ボランティアセンターの円滑な運営に向けた広域調整や後方支援を行うとともに、県災害時要配慮者支援チームの派遣調整を担い、被災者が一日も早く日常生活を取り戻せるよう、一人ひとりのニーズに寄り添った伴走型の生活支援を行います。

【キックオフセミナーの開催】

令和8年6月8日（月）に開催した「愛媛県災害福祉支援センター キックオフセミナー」には、県内外から100名を超える災害福祉支援の関係者が集まり、行政、社会福祉協議会、士業など様々な立場から、南海トラフ地震等の大規模災害に備えた取組や今後の方向性について共有しました。





愛媛県災害福祉支援センター（愛媛県社会福祉協議会）
〒790-8553　松山市持田町三丁目8番15号
TEL　089－921－8912／FAX　089－921－8939
Eメール　saifuku@ehime-shakyo.or.jp